

4. 農大ロビー展2022「骨の随までホネざんまい」

期間：2022年12月10-20日（11日間）

会場：小清水ツーリストセンター（小清水町浜小清水）

主催：東京農業大学学術情報課程（オホーツクキャンパス）

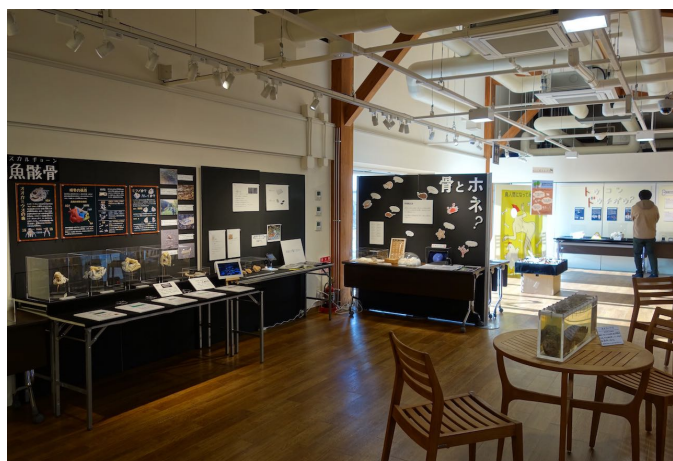
協力：小清水町観光協会

今年度は生き物の骨をテーマにした。10班に分かれ、それぞれが1つの展示コーナーを担当した。班員の数は自由としたので、魚類の骨格と透明標本は1人で作業にあたった。シナリオ設定はしなかったが、結果的に展示室前半は無脊椎動物や水の生き物のコーナーとなり、昆虫や節足動物、外骨格の分解標本、ワカサギの透明骨格標本、オオカミウオなど魚類の頭骨、ガラス質の骨格を持つ珪藻、カブトガニ幼体の外骨格や瀬戸内産の微小貝類などが資料となり、後半部分は鳥類と哺乳類でエゾシカの頭骨や幼獣の全身骨格、トド頭骨の雌雄比較、KFCオリジナルチキン製の骨格標本、エゾフクロウの骨格と羽毛や聴覚体験装置などが展示された。入口付近には学生が手作りした鹿角製の釣り針を置いた。

展示をおこなった3年生は、新型コロナの流行により入学年度はずっと遠隔授業だった学年である。地域のなかで手作りの展示会が開催できたことは本当に幸いであった。メディアでは、北海道新聞「オホーツク網走美幌」面で12月13日に記事が掲載された。期間中の来場者は自動カウントで1,215人だった。



農大ロビー展2022ポスター
タイポグラフィー
鳴瀬翔（海洋水産学科）



中：導入部として手作りの鹿角釣り針やザリガニの外骨格を置いた
下：小魚の透明骨格標本。照明は過去のロビー展で学生が手作りしたものを改造して再利用

上左：魚類の頭骨や珪藻、貝類などの外骨格
上右：エゾフクロウコーナー
左下2枚：設営の終了後、班ごとに展示概要の説明をおこなった。ここで初めての互いの展示を知ることになる
中下：エゾシカの骨格の一部はジオラマ風に展示した